

前置詞を制すものは英語を制す

交互作用を制すものは
(interaction)
疫学を制す!



座長 ————— 講師



川崎良

大阪大学・教授



岩上将夫

(企画者)
筑波大学・教授

小柳友理子

愛知県がんセンター・
ユニット長

井上浩輔

京都大学・教授

現地(先着250名)
および後日
オンデマンド配信
(リアルタイム配信なし)

「前置詞を制すものは英語を制す」という格言がありますが、私たち講師陣は「交互作用(interaction)を制すものは疫学を制す」と言っても過言ではないくらい、交互作用および異質性(heterogeneity)の理解は、疫学者にとって最も重要なことの1つであると思っています。本セミナーでは、まず初学者および中・上級者の復習向けにModern Epidemiology第4版(第26章交互作用の分析)等の基本事項を概説した後、その応用として遺伝環境交互作用(gene-environment interaction)および遺伝遺伝交互作用(gene-gene interaction)について実例の紹介を行い、最後に、最近のホットピックである異質性の話題につなげます。初学者の方も積極的に御参加いただけましたら幸いです。

講義の
予定

- (1) 交互作用の基本(岩上)
- (2) 遺伝環境交互作用および遺伝遺伝交互作用の実例(小柳)
- (3) 交互作用から異質性、そして個別化予防・個別化医療へ(井上)

参加費

一般:4,000円
学生:1,000円

2026.1.28 WED 15:30-17:30

参加
登録

下記、第36回日本疫学会学術総会の参加登録ページにてご登録ください。
<https://joint-jea-ieawpr2026.jp/> (右記二次元バーコードでもアクセスできます)

